



学校だより

10月号 408号

教育目標：自分が好き 友だちが好き まちが好き 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

朝会の話

校長 金森 孝子

「天高く馬肥ゆる秋」の表現がびったりな秋晴れのもと、スポチャレ（運動会）の練習が始まりました。校庭から子どもたちの走る音や歓声が聞こえると心が躍ります。運動会は大幅に内容が変わりましたが、練習に打ち込み、演技を楽しんでいる子どもたちの姿は、いつときコロナを忘れさせてくれます。日常の充実した教育活動と子どもたちのひたむきな姿がそこにはあります。

10月号は、最近の朝会での「校長の話」を紹介します。朝会は月に複数回ありますが、私は、学校で見つけた季節やニュースで話題になっていることを取りあげながら、子どもたちの学びや興味・関心につながるような話題を選んで話しています。

■8月31日（月）「野菜の話」

や（8）さ（3）い（1）の語呂合わせで、8月31日（今日）は、1年に1回の「野菜の日」でした。その日にちなみ、野菜をテーマに、物事を多面的に見て調べていくことで得られる知識広がり面白さ、「今日は何の日？」に興味をもつことの楽しさについて伝えたいと思いました。例として、栄養素の面から、「パプリカ」を取り上げ、赤・黄・オレンジ・緑など見た目がカラフルでおしゃれな感じのする野菜が、実はビタミンなどの栄養価が極めて高い野菜ということ。国による食べ方の違いという面から、夏野菜の一つ「キュウリ」を取り上げ、日本では野菜として食べているキュウリが、中国では果物として食されていること、レストランでフルーツの盛り合わせとしてキュウリがそのまままで出てくることがあって驚いたことなど。

その他にも、2年生が、地域の栗原さんに野菜作りやお世話の仕方を教えていただくなど大変お世話になっていること、学びを支えてくださる方が地域にたくさんいらっしゃることも話しました。

■9月14日（月）「大坂なおみ選手と萩生田文部科学大臣からのメッセージ」

この日、私は「コロナによる差別」について話そうと計画を立てていましたが、前日（9月13日）早朝、大坂なおみ選手が全米オープンテニス、女子シングルス決勝で2回目の優勝を果たしたことを受けて、選手がこの大会でずっと発信してきたメッセージについて伝えなければならないという思いに駆られました。

「大坂選手は、この大会で、人種差別への抗議の行動として、事件に巻き込まれて亡くなった黒人男性、女性の名前が入ったマスクを着用し、試合に臨みました。そして、自分の行動が、『みんなの考えるきっかけにしたかった』とインタビューで話しました。優勝することも大変な中、行動を起こしたことに私は大きな感銘を受けました。」と。

また、依然として「コロナによる差別」が大きな社会問題になっていることから、6月1日に児童支援専任が子どもたちに話した「3つの感染症」と萩生田文部科学大臣の発出した児童生徒へのメッセージを読み上げ、再度、差別についてクラスで話し合うなど、学びきっかけにしてほしいことを伝えました。

■9月28日（月）「彼岸花と月」

25日（金）、保健室の近くに咲いている白の彼岸花を見つけました。白の彼岸花はとても珍しい上、横にはまだ開いていない赤の彼岸花があります。しかし、28日（月）の朝、彼岸花を見に行くと、赤の彼岸花は大きく花をさかせ、白の方はさらに大きく開いていました。花の色と開花の日の違いを発見し、これは、子どもに伝えなければ、と思いました。彼岸花は、別名「曼珠沙華」（マンジュシャゲ）と呼ばれ、お彼岸の頃に咲く花です。4年国語教科書に出てくる「ごんぎつね」の世界を表す象徴的な花でもあります。

10月1日が「中秋の名月」であることにも触れ、「きっと夕方6時近く、東の空に満月が上ってくると思います。どうして、月が形を変え、上る時間が違うのかについて調べ、考えていくと、天体のことがよくわかるようになります。」とも伝えました。（実は満月も、「ごんぎつね」の世界をより印象的にしています。）子どもたちには、自然や季節の移ろいを感じながら、感性豊かには育ってほしいと願っています。

※山田小スマイルフォーラム（学校説明会）の視聴ありがとうございました。今後、変更、決定したことは、該当学年を中心にお伝えしていきます。



9月25日の彼岸花



9月28日の彼岸花